

2004.5.1

循環器・呼吸器病センター

だより

第23号



若葉の候、先生方におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、当センターは今年度開設10周年を迎えることとなりました。開設した平成6年度は、入院・外来合わせて患者さんの数は10万4千人でしたが、平成15年度は18万6千人の方に来院していただくことができました。これもひとえに各医師会の先生方の御協力の賜と厚くお礼申し上げます。

今後とも、各医師会の先生方との医療連携を進め、地域医療の発展に尽くす所存です。どうぞよろしく願い申し上げます。

病院長 堀江 俊伸

放射線治療について

放射線科副部長 星 俊子

昨年度私たちの施設では放射線治療装置を更新し、新しい装置が今年4月から稼働をはじめました。装置更新工事のために約半年間放射線治療を行うことができず、先生方にはご迷惑をおかけしました。

放射線治療では、病変部のみに高い線量を与え周囲の正常組織の被曝を抑えるのが理想的な治療法です。これを実現するためには正確な診断とそれに基づいた適正な治療計画、再現性のよい照射が必要です。新しい装置はこれら全体を制御する装置で複雑な治療法を簡便に安全に行えるようになりました。

以前はX線透視を用いて二次元上で照射野を決定していましたが、CTを用いて三次元治療計画装置で照射計画を作成します。また、腫瘍の部位、大きさ、形態は患者さんごとに異なりますが、新しい装置では不正形の腫瘍にあわせた照射野を作ることができるようになりました。さらに、従来行われてきた一門照射、対向二門照射に加えて三門以上の多門照射が正確に容易に行えるようになったので、治療法の幅がひろがりました。

病変のみに高い線量を集める照射方法のひとつにラジオサージェリーがあります。病変を中心とした扇形にX線発生装置を回転させる照射法を患者さんのベッドの角度を変えながら多方向から行います。これによって病変のみに高線量を集めるのがラジオサージェリーです。ラジオサージェリーが適応となるのは脳腫瘍の一部ですが、開頭手術に比べると低侵襲、低リスクであること、通常数週間かけて分割照射を行うところを一回の照射ですむため入院期間も短くてすむことなどの利点があります。ラジオサージェリーも現在準備中です。

最近、数件の放射線過照射、過小照射などの放射線治療に関わる医療事故が新聞紙上ににぎわしました。報道によればこれらの事故は担当者の思いこみや相互の意思疎通不足が原因とされています。放射線照射は間違っで行われた場合、患者さんの身体に重篤な障害を与える可能性があります。当センターでもこのようなことがないように注意して診療を行っています。

今回新しい装置導入に伴い放射線科医が増員され、過日新しく放射線治療専門医 松本寛子(まつもと ひろこ)が着任しました。これまで担当してきた叶内 哲(かなうち てつ)とともに放射線治療部門の充実を図っていきます。今後、放射線治療についてのご相談、ご依頼は、松本寛子までご連絡ください。